



2025

ANNUAL REPORT

2025年度 年次報告書

自分を変える・社会を変える・笑顔になる！



NPO 二枚目の名刺

良質な越境体験を、手を挙げたすべての人に届けることを目指して

組織の外で活動することは、もはや特別な選択ではなくなってきています。そんな時代の中で、私たちが今あらためて取り組むべきテーマ。それは、良質な越境体験を、手を挙げたすべての人に届けられるかということです。

2025年度は、“2枚目の名刺”を持つことを通じた変化の連鎖を広げるため、運営体制のバージョンアップを進めました。2026年度からはサポートプロジェクトも参加費制度を導入しますが、これはソーシャルセクターでも越境学習界隈でも新しい取り組みとなります。持続的に質を高め、越境機会を広げていくための大切な一歩だと考えています。

社会全体を見渡せば、私たちは人口減少社会のただ中にいます。これからの社会を誰が支え、どのように担い手を育てていくのか。企業も行政も地域コミュニティも、同じ問いを抱えています。私たち二枚目の名刺としても、このテーマにしっかり向き合い、越境を通じて社会の担い手を育てる仕組みをつくっていききたいと考えています。

メンバー全員が“2枚目の名刺”として運営する実験場「NPO二枚目の名刺」は、創設以来、前向きな試行錯誤を続けてきました。これからも「2枚目の名刺」があたり前の選択肢となる社会を目指し、多くの「自分を変える、社会を変える、笑顔になる」ストーリーを後押ししていきます。



特定非営利活動法人 二枚目の名刺 代表
廣 優樹

私たちのビジョン・ミッション

私たちが
思い描く未来
(ビジョン)

二枚目の名刺では、社会人があたり前の選択肢として、
2枚目の名刺を持ち社会の変化を仕掛けている、そんな未来を実現します。

私たちが
取り組むこと
(ミッション)

NPO法人 二枚目の名刺は

- ① 社会人が2枚目の名刺を持つきっかけを作ること、
- ② 2枚目の名刺を持つことがあたり前となる社会の雰囲気を作ること、
- ③ 2枚目の名刺を持つ社会人のつながりを作ること、
に取り組めます。

“2枚目の名刺”を持つきっかけとなる良質な越境機会を提供する

Common Room



同じ意識を持つ仲間や、先端的な
活動を実践する団体との出会い

サポートプロジェクト



様々な背景を持つメンバーによる
プロジェクトの実践

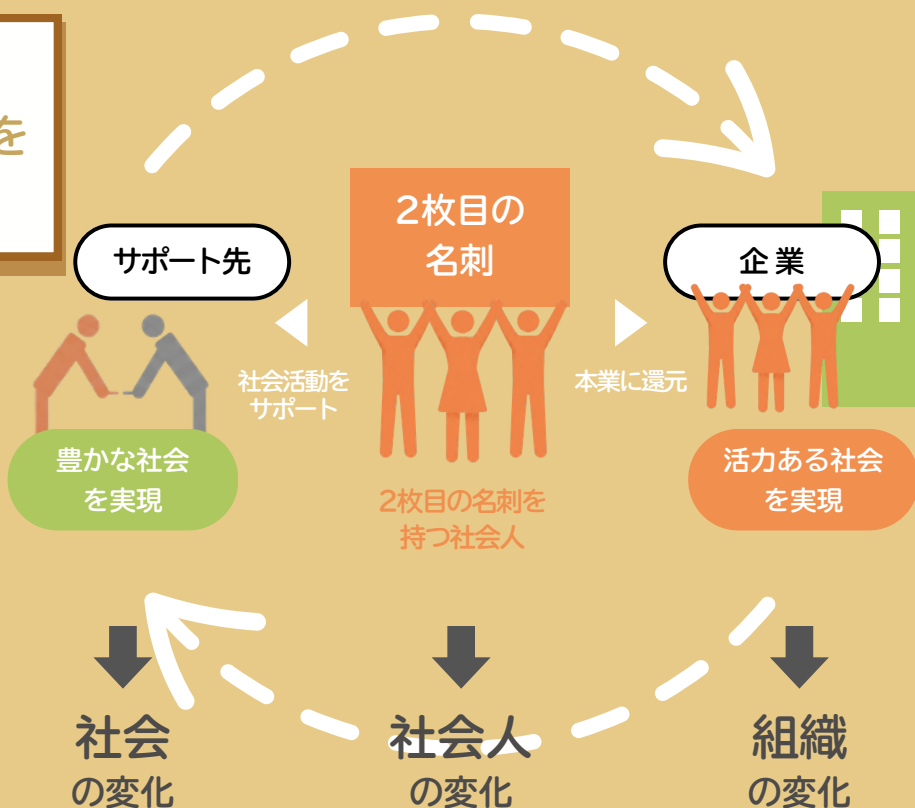
社会人、NPO、行政の出会いの場であるCommon Roomに参加した後、自ら「想い」を持った団体に手を挙げて参加
いただくサポートプロジェクトを開催しています。プロジェクトでは、共感（想い）を重視し、必ずしもスキル・経験を
必要としていません。各プロジェクトは、社会人等5～6人でチームを編成し、プロジェクトデザイナーが伴走します。

“2枚目の名刺”とは？

“2枚目の名刺”は、所属する組織、立場を超え、社会のこれからを創る時に持つ名刺です。社会貢献活動に限らず、これまでになかった組織外での挑戦、新たな学びの形や自分らしい社会との関わりなど、生み出される様々な変革のストーリーを丁寧に編集し、社会へ積極的に発信していきます。

“2枚目の名刺”を通じて 社会・社会人・組織の変化を 同時に実現する

“2枚目の名刺”を持った活動を通じて社会活動を行い、ひいては社会および自分自身の繁栄につなげていきます。その際、派遣している起業にも恩恵があるようにします。



“2枚目の名刺”を持ちやすい雰囲気を社会につくる

多様な「2枚目の名刺ストーリー」を社会に届けることで、“2枚目の名刺”に興味・関心を多くの方に持っていただくようにしていきます。

2枚目の名刺
Web
マガジン

2枚目の名刺を持つ人たちの、多様でいきいきした活動のストーリーを届けるオウンドメディア。

調査・研究

2枚目の名刺を持つ意味や価値について、さまざまな角度から調査・研究を行い発信しています。

企業や行政等
との連携
プロジェクト

人材育成・組織開発の一環として、また地域課題解決の取り組みとして、企業や行政等と連携したサポートプロジェクトが増えています。

講演・セミナー

2枚目の名刺というスタイルが社会に生み出す価値についてお話します。

2025年度の 活動実績

2025年度は、CR111からCR120までのサポートプロジェクトを通じて、多様な団体と社会人・学生が協働し、それぞれの現場に根ざした課題解決と事業推進に取り組みました。そのなかでも、今年度を象徴する取り組みとなったのが、福島12市町村 ソーシャルコラボレーション プロジェクト「Hello! 福島。」と、Glass Rockとの連携による対面の場づくりでした。地域と都市部、団体と参加者、支援と学び——そのあいだに新しい関係を育てた一年でした。

Common Room (CR)

(CR:プロジェクト説明会)

	2025年度	累計
CR開催数 (回)	10	120
CR参加者数 (人)	179	6,902

2025年度は、Common Room (CR) を10回開催しました。社会課題に取り組む団体の皆さまに活動や課題を紹介いただき、参加者との対話を通じて、新たな出会いや共感が生まれる場となりました。団体と参加者が互いに理解を深め、それぞれの想いや経験を共有することで、サポートプロジェクト (SPJ) へとつながる最初の接点となっています。また、各団体によるプレゼンテーション動画は二枚目の名刺公式YouTubeチャンネルでも公開しており、団体の取り組みや向き合う社会課題を知るきっかけとして、ご覧いただけるようにしております。

二枚目の名刺
Youtubeチャンネルはこちら



サポートプロジェクト (SPJ)

(SPJ:社会人と団体との
課題解決の為にプロジェクト)

	2025年度	累計
SPJ開催数 (回)	22	249
SPJ参加者数 (人)	117	1,398

2025年度のSPJを振り返ると、団体ごとの個別課題に向き合いながらも、共通して浮かび上がったテーマがありました。それは「活動の価値をどう社会に伝えるか」、「継続可能な運営基盤をどうつくるか」という問いです。体験価値の言語化と研修メニュー開発、音楽体験の発信、合理的配慮支援アプリの社会実装、アップサイクル商品の販路開拓など、各団体の課題に応じた具体的な実践が積み重ねられました。また、教育や若者支援、組織基盤強化の領域で中長期的な視点を持った支援が進み、団体の強みや可能性を整理しながら、次の挑戦につながる土台づくりが行われました。

こうしたプロジェクト群から見えてくるのは、SPJが単なる成果物の提供にとどまらないということです。支援内容は多岐にわたりますが、その根底には「団体の可能性を外部の視点で再編集する」という共通の価値があります。支援の過程そのものが団体にとっての学びとなり、短期的には資料・企画・発信施策といった形ある成果が生まれます。そして長期的には、団体内の共通認識の醸成、社会への伝え方の確立、外部とのつながりの構築といった継続的な変化の土台が育まれていきます。この積み重ねこそが、2025年度のSPJを支えた本質的な価値でした。

2025年度 サポートプロジェクト団体一覧

CR111 ・ 非営利株式会社蓮葉果紅
・ NPO法人みんなのことば

CR112 ・ 特定非営利活動法人エンリッチ
・ 株式会社袖縁

CR113 ・ NPO法人 障がい者就労支援事業
共創ネットワーク (K-NET!)

CR114 ・ NPO法人アラジ
・ NPO法人 AfriMedico

CR115 ・ 一般社団法人未来共創イノベーション
・ Community Yoga Tokyo (CYT)

CR116 ・ NPO法人xTReeE (クロスツリー)
・ NPO法人マナビノキ
・ わくわくミライラボ

CR117 ・ NPO法人HIKIDASHI
・ ティンカーベル

CR118 ・ NPO法人miraito
・ NPO法人 The Peace Front
・ 一般社団法人4Hearts

CR119 ・ イクシバ! プロジェクト
・ NPO法人Chance For All

CR120 ・ 任意団体いわき・双葉の子育て応援コミュニティ
cotohana
・ 株式会社いのちとぶんか社
・ 一般社団法人nononowa



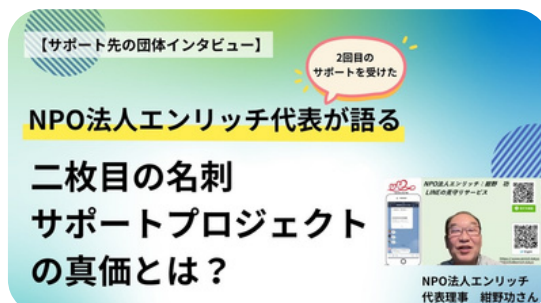
サポートプロジェクトの価値

2025年度は、個別のプロジェクト成果に加えて、「二枚目の名刺のサポートプロジェクトは、何を生み出しているのか」が、支援先団体と参加者双方の声から、よりはっきりと言語化された一年でもありました。そこから見えてきたのは、サポートプロジェクトが、団体の課題解決を支えるだけでなく、参加する一人ひとりの働き方や価値観、社会との関わり方にも変化をもたらす場であるということです。

支援先が語った、二枚目の名刺の真価

CR112で協働した特定非営利活動法人エンリッチの代表・紺野さんは、二枚目の名刺の価値を支援先の立場から明確に示してくれました。サポートプロジェクトデザイナーが各メンバーの潤滑油となり、活発な議論を支えていたこと、そしてシステムティックな仕組みと安定した運営体制が、団体側に大きな安心感をもたらした、と語ってくださいました。また、本業を抱えながらも真剣に関わる社会人メンバーの姿勢に、強い信頼と感銘が示されました。

同時に紺野さんは、支援を受ける団体側にとっても、何を目的に、どのような成果物を求めるのかを明確にすることの重要性を学びとして挙げています。つまり二枚目の名刺のサポートプロジェクトは、団体に成果物を届けるだけでなく、団体自身が課題やゴールを見つめ直し、より良い協働の土台を整える機会でもあります。こうした一貫した理念と運営の質に対して、紺野さんは「信頼できる中間支援団体」としての独自性を感じたと語ってくださいています。



記事はこちら



参加者の声から見える価値

SPJ参加者から、サポートプロジェクトの価値が、より身近な言葉で語られています。

「社会貢献って、もっと身近でいい」



「社会貢献って、もっと身近でいい」では、参加のきっかけは大それたものでなくてよく、まずは飛び込んでみる勇気が大切だというメッセージが示されました。

実際に参加することで、時間の使い方が変わり、当初は「自分のため」だった動機が、やがて「人を助けたい」、「社会をよくしたい」という思いへと変化していく様子が語られています。

記事はこちら



「2枚目の名刺を持つということ」



「2枚目の名刺を持つということ」では、中高の理科教員や社会保険労務士といった異なる職業の参加者が、本業の外に出ることで新しい社会とのつながりを得たこと、本業では得にくい視点やスキルを学んだこと、そしてプロジェクト後も団体やメンバーとの“緩いつながり”が続いていることが、大きな成果として語られています。参加者が後にデザイナーへと役割を広げていく姿も含め、二枚目の名刺が支援される側だけでなく、支える側も育てていく場であることが伝わってきます。

記事はこちら



「ミドルシニアの越境学習」



「ミドルシニアの越境学習」では、キャリア後半の参加者が、社外での挑戦を通じてビジネススキルの停滞への不安を乗り越え、他企業の社員や若い世代との共創の中で、「新たな分野でもやればできる」という自己効力感を取り戻していく姿が描かれました。自分の持つスキルがNPOや地域団体にとって貴重な戦力になることを実感し、「失うものではなく、得るものしかない」という感覚に至ったことは、二枚目の名刺が越境学習の場として持つ力を象徴しています。

記事はこちら



子育ての未来を
語る

Hello! 福島。

福島12市町村で社会課題に取り組む
3ヶ月間の共創プロジェクト

継承食文化を
考える

コミュニティを
考える



2025年開催



公益社団法人福島相双復興推進機構主催のもと、NPO法人二枚目の名刺がその運営を委託され、福島を舞台に現地でのリアルとオンラインを組み合わせ、プロジェクトを実施しました。2025年9月～12月、キックオフMT・中間報告会・最終報告会の3回は現地開催（1泊2日）、週1回・1回2時間程度のオンラインミーティングを実施。参加した社会人・学生は、地震・津波に加え原発による複合災害を受けた福島12市町村で社会課題に取り組む3団体と共創する貴重な経験を積み、プロジェクト終了後も各団体と良好な関係となっています。

cotohana*

いわき・双葉の子育て応援コミュニティ

どんな活動

福島県双葉郡で子育て応援のため、「子育て中の家族」「子育て支援に関わる地域の方」「関係機関」との連携を目指し、情報発信・事業づくりを推進しています。

課題

- 1 共感から行動につながる関係性を育む
- 2 持続可能な自立型の運営基盤づくり
- 3 多様なニーズに応えるネットワークづくり

成果物

- 1 団体紹介フライヤー制作・富岡演劇祭でブース出展。1on1で想いを深掘りしSNS発信体制を強化
- 2 資金構造を分析し、新たな資金源として寄附金・マンスリーサポーター制度を探究
- 3 地域ステークホルダーマッピング作成・アンケート実施



いのちとぶんか
ぶんかで、いのちをつなぐ。

どんな活動

福島県浪江町を拠点に、「文化・生活・教育・地域・防災」をひとつのつながりと捉え、和太鼓などの文化継承やまちづくり・防災に取り組む。「祭り」を軸に助け合える地域づくりを目指す。

課題

- 1 震災・原発事故による人と人とのつながりの希薄化
- 2 地域の文化・祭りを継承する担い手の不足

成果物

- 1 相双エリア12市町村をつなぐ新たな交流の場づくりを目指し、任意団体「ふたばの灯」を設立
- 2 2028年の「相双エリア12市町村合同盆踊り大会」実現に向けた構想づくりを実施
- 3 2026年のプレイベント開催に向けた企画案や広報資料、活動計画の作成



@nononowa

どんな活動

福島県田村市・長外路（ながとろ）城跡で、土に触れ季節を味わう「循環ある暮らし」を探究。地域で愛された和製ベリー「ナツハゼ」の生産・加工の事業継承を行う。

課題

- 1 前生産者の歩みと今後の事業への共感を生むストーリーと広報
- 2 nononowaとナツハゼの認知向上・ブランディング
- 3 nononowaとナツハゼ商品の都市部へ認知拡大と関係構築

成果物

- 1 HP、SNS等の広報時に使える「ブランドブック」の作成
- 2 ブランドブックのイメージを表現する簡易HPの作成
- 3 商品開発（古民家とツリークライミングを組み合わせた、ツアー企画）



【福島】参加団体・プロジェクトデザイナー・運営の声



参加団体メンバー

団体内の意思統一につながった

多種多様な方たちと議論をしていくことで、団体内のメンバー間の認識が深まり、意思統一ができた。これまで私たちが取り組んできたことは、間違っていなかったということがわかり、とても自信になった。今回のプロジェクトを通して、こういった団体の「核」ともいえる、ミッションの重要性があらためてわかった。

プロジェクトデザイナー

現地でメンバーと会えた価値

プロジェクトメンバーと団体関係者が現地でリアルで会えるっていうのはすごく大きかった。メンバー同士も団体との関係性も、オンラインに比べて圧倒的に作りやすかった。団体の方たちとの何気ない会話の中で、団体の現状や活動に対する「想い」の理解が圧倒的に深まる。実際に被災現場を見たり、地元の方たちから「まだ、震災前の生活に戻っていないんです」という話を聞き、ギャップの大きさに驚きました。やはり、実際に現地に行ってよかった。



運営メンバー

次につながる「余白」を残す

3カ月という期間は、長いようで短い。しかし、その中で新たに生まれた福島県相双地域等の方との出会いや関係は、プロジェクト終了後も続いていく可能性を秘めている。振り返りの中でも、「今回の取り組みは、福島に関わる人口としてとても良い形だった」という声がありました。すべてを完成させるのではなく、次につながる余白を残すこと。それが、関係人口を生み出すプロジェクトの一つの形。

【虎ノ門ヒルズ Glass Rock開催】～対面で出会い、動き出す場～

2025年度、二枚目の名刺は森ビル株式会社が企画・運営するGlass Rockの共創パートナーとして、100年後の未来を見据えた社会課題解決に向けた活動を進めました。

虎ノ門ヒルズ グラスロックB1F「Glass Rock Members Lounge」を会場に、現地参加型でサポートプロジェクト説明会を開催し、オンライン中心の時期を経て、あらためて“場に集まり、社会課題に出会い、共感し、参加へとつながる価値”を打ち出す一年となりました。

これは、二枚目の名刺にとってのCRの役割を、現代的な形で再び前に進める実践でもありました。





2025年度の企業連携状況

当年度は、リーダー層としての活躍が期待される若手～中堅社員向け育成プログラムと連動した“実践の場”として複数の企業様にサポートプロジェクトへご参加いただきました。研修で得た知識を、NPOとの協働というリアルな環境で試すことで、参加社員の皆様が自らの強み・課題に気づき、行動変容につながる学びを得られたとの声を多くいただいています。結果として、研修プログラム全体の効果向上にも寄与する取り組みとなりました。

この経験を踏まえ、2026年度は診断ツールの導入や内省機会の強化など、越境体験の質をさらに高める仕組みづくりを進めています。企業様の人材育成において、より確かな成長実感を生み出すプログラムを提供してまいります。



東京海上日動

2025年度に対応した企業

「東京海上日動火災保険 株式会社」



企業様からのメッセージ



東京海上日動火災保険（株）人事企画部 人材開発室 能力開発チーム
マネージャー

高須 加奈子 様

弊社では、今回の越境学習を『自身の譲れない志を見つめ直し、実社会で試し、リーダーシップを磨く機会』と位置づけ、派遣をさせていただきました。

実際に参加者からは、肩書に依らず多様な価値観を持つ社外メンバーと共創する中で、視野の狭さや思考の制約に気づき、ミッションドリブンで価値を生み出す難しさと手応えを体感したとの声が寄せられています。

また、参加団体代表の皆様の熱量に触れるとともに、参加者全員が共感できる共通の目的を言語化し、メンバーの力を引き出すプロセスを通じて、リーダーシップを構成する要素を実践的に学ぶ機会となったとの実感も得られています。

このような貴重な機会を提供いただいていることに、人事として心より感謝申し上げます。

二枚目の名刺へのご支援のお願い

11ページにも記載していますが、二枚目の名刺では、ご寄付や賛助会費を受け付けています。

いただいたお金は、サポートプロジェクトの充実や2枚目の名刺を持つことが当たり前になる社会の雰囲気づくりのために役立てています。

昨年度は、2月22日の「2枚目の名刺の日」に、集中的にご寄付をいただきました。今年度も、どうぞご支援をよろしくお願いします！

寄付の方法に関しては

P11のご案内をご覧ください。



エクセレントNPO大賞
★★★★★



エクセレントNPO大賞
市民賞
★★★★

当団体は2021年に「エクセレントNPO大賞と市民賞」を受賞しました。世の中から評価される団体としてこれからも尽力します。



2枚目の名刺を持つことが当たり前になるための取組み

広報ユニットでは、「二枚目の名刺」の活動をより多くの方に届けるため、普及啓発を目的としてWEB発信を軸に取り組みを行ってきました。

1

情報発信の 継続&強化



インスタグラムアカウントの開設

- 画像や動画を活かしたイベント案内等の拡充
- 新たな関心層への接点を強化

<https://www.instagram.com/nimaimenomeishi/>

メルマガ配信（年間21通）

- 各期のSPJ募集告知や最新の活動紹介などを発信
- 登録者と継続的な接点づくりに寄与

公式HP「お知らせ」記事掲載（年間23本）

- 活動報告・イベント案内・メディア掲載報告などを発信
- 最新情報の定期的な提供による信頼性向上



Instagram
二次元バーコードより
ぜひご覧ください

2

活動記録の 可視化



SPJ活動報告（22団体分）をHP掲載

- CR111~120までの全プロジェクトを個別にまとめ掲載
- 団体と参加メンバーによる活動状況や成果を記録・発信

WEBマガジン記事（全13本）を公開

- 越境体験や現場のリアルを丁寧に伝える記事を制作
- 一歩踏み出したい読者に届く読み物として設計

<https://magazine.nimaime.or.jp/>



WEBマガジン
二次元バーコードより
ぜひご覧ください

今後も、社会との接点を広げ、「共感」から「参加」への循環を生み出す広報を目指して活動していきます。

二枚目の名刺ってなんなん？ 団体活動説明会

二枚目の名刺では、NPO団体や参加社会人に対し、その活動内容の”リアル”特に現場の声をお届けするためにほぼ毎月「二枚目の名刺ってなんなん？」という団体活動説明会を開催しています。

2025年は10回開催し、全国から276名の方に参加いただきました。テーマは「ミドル・シニア」「若者」「公務員・学生」など、毎回異なるテーマで開催しています。随時メルマガなどで広報します。ぜひ「二枚目のリアル」を体感してください。



● 活動計算書（2025年4月1日～2026年3月31日）

（単位：円）

経常収益		経常費用	
受取寄付金	76,963	事業費	
NPO等支援事業収益	12,110,278	支払報酬	3,700,743
受取利息	6,615	その他経費	4,599,962
雑収入	524,008	管理費	
		支払報酬	330,083
		その他経費	1,621,421
経常収益計	12,717,864	経常費用計	10,252,209
当期経常増減額			2,465,655
法人税、住民税及び事業税			70,000
前期繰越正味財産額			3,189,045
次期繰越正味財産額			5,584,700

● 貸借対照表（2026年3月31日現在）

（単位：円）

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金預金	5,234,667	未払費用	2,105,280
その他流動資産	2,843,654	未払法人税等	70,000
		未払消費税	297,300
		預り金	21,041
		負債合計	2,493,621
		正味財産の部	
		前期繰越正味財産額	3,189,045
		当期正味財産増減額	2,395,655
		正味財産合計	5,584,700
資産合計	8,078,321	負債及び正味財産合計	8,078,321

2026年度から、運営メンバー（正会員）の会費制度を導入しました。

2024年の「二枚目の名刺のこれからを考える検討会」を経て、当団体は持続可能な活動に向けた「収支構造の多様化」を重要課題に掲げています。現在は企業委託収益で組織運営費を賄っていますが、今後の新規事業や社会への発信力を高めるためには、安定した財務基盤が不可欠です。

そこで運営基盤を支える仕組みの一つとして、2026年度から、運営メンバー（正会員）の会費制度を導入し、その会費を組織運営費に充当することとしました。

二枚目の名刺の運営メンバーについて

二枚目の名刺の活動を支えているのは、運営メンバーです。
約50人超のメンバーがありますが、年代も業種も様々です。以下、3名のメンバーを紹介します。



きりさん

年代：30代
一枚目：元中高教員
居住地：神奈川

学校の中だけでは社会を十分に学びきれないと感じ、「外の世界とつながる学び」を求めて二枚目の名刺に参加。昨年は福島プロジェクトでSPJデザイナーを担当。越境の経験からさらに外の世界へ関心が広がり、思い切って教員を辞め、青年海外協力隊として海外に挑戦予定。モットーは逆境を求め、越境を愛すること。

二枚目の名刺の活動は、私の「好き活」です。「八方美人」から始まった私の歩みは、仕事での葛藤、ストレングスファインダーとキャリアコンサルティングの学びを経て、「人は納得した時こそ力を発揮する」と実感しました。未だ自分自身も迷いながらではありますが、自分らしい一歩を踏み出したい人の伴走者でありたいと考えています。



しげさん

年代：50代
一枚目：プロジェクトマネジメント（製薬会社）
居住地：東京

会社員生活を卒業し、今は、個人事業主として働いています。70歳を機に新しいことへ挑戦したいと思い、二枚目の名刺に参加しました。これまで会えることのなかった方々との交流に日々ワクワクしています。セカンドキャリアを考える皆さんにとって、二枚目の名刺は気軽に一歩を踏み出せる場だと思います。



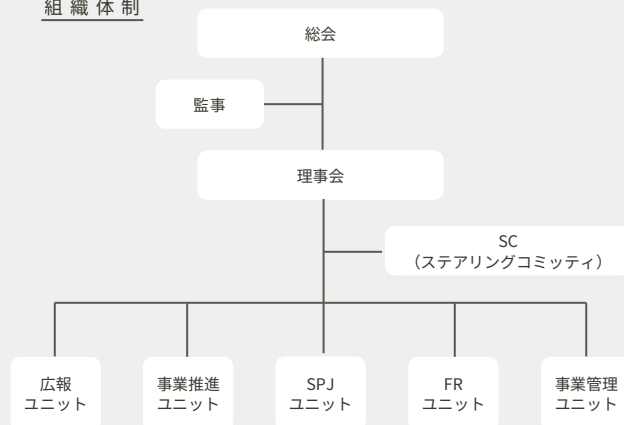
はじめさん

年代：70代
一枚目：医薬品開発
居住地：東京

団体概要

団体名称	特定非営利活動法人 二枚目の名刺
設立	2009年9月（2011年2月東京都の認可を受けてNPO法人化）
代表	廣 優樹
事業内容	1 NPO法人との協業事業 2 企業・行政との連携によるパラレルキャリア普及事業 3 調査・研究事業 4 メディア事業
住所	〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷一丁目31番1-504号
WEB	http://nimaimo.or.jp
Facebook	https://www.facebook.com/Nimaimenomeishi
Instagram	https://www.instagram.com/nimaimenomeishi
X	https://x.com/nimaimenomeishi

組織体制



※注 SPJ=サポートプロジェクト FR=ファンドレイジング

二枚目の名刺のサポートプロジェクトへの参加方法

二枚目の名刺の活動への参加にご関心のある方は、
団体活動説明会への参加をお勧めします。

「二枚目の名刺ってなんなん？」という団体活動説明会をほぼ毎月開催しています。そこでは、サポートプロジェクトの説明も行っているため、まずは参加してみたいかがででしょうか。



サポートプロジェクトへの参加方法

上記説明会等の情報で、サポートプロジェクトへの参加をご希望される方は、HP、FB、Peatixやメルマガで随時、情報提供をしていますので、ご確認ください。

HP

<https://nimaime.or.jp/projects>

FB

www.facebook.com/Nimaimenomeishi/

Peatix

peatix.com/group/18080

メルマガ

以下をご確認ください。



サポートプロジェクトの卒業生は
アルムナイコミュニティへ

サポートプロジェクトを終了された方のうち、二枚目の名刺のアルムナイコミュニティに参加されている方も結構おられます。二枚目の名刺に愛着がある方はぜひご参加ください！

メルマガ「二枚目通信」

最新のイベント情報や活動報告、また、2枚目の名刺に係る参考情報などを、月1~2回定期的にお届けしております。登録は右の二次元バーコードよりお願いします！



賛助会員（二枚目会員）・寄付のご案内

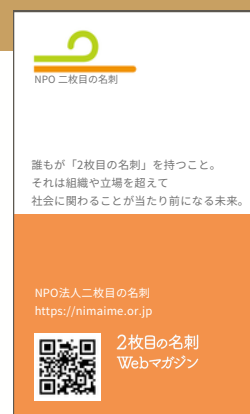
2枚目の名刺を持つ機会の提供、また、2枚目の名刺を持つことが当たり前になる社会を作っていくため、資金面で応援いただける方を募集しています。寄付いただいた方には、年次報告書をお送りさせていただきます！

二枚目会員
向け特典

- 年次報告書の送付（年1回）
- サポートプロジェクト報告会の見学
- アンバサダー名刺の発行（任意）※
※ 別途、制作費等をいただきます



○アンバサダー名刺見本



二枚目会員や寄付についての詳細は右記の二次元バーコードから